HOSEI
2015
Mar.

後援会だより

「子どもの母校は我が母校」
後援会が保護者の皆さまと作るページです。

親子で綴る法政の4年間

親元を離れて得たもの

法学部
一宮 麻里奈

大学に入学してからのこの4年間はあっという間でもあり、自分を成長させることができた4年間でもありました。入学をきっかけに北海道から上京してきたのですが、親元から離れるまでの私は親に頼ってばかりでいました。何もできず、わからないことが多かったので大学生活がスタートした時はとても苦労しました。家事などの生活面もすべて自分でしなければならなかったため、離れてから面倒をみてくれた親のありがたさに気付きました。

新しい土地で友達もいなかった私は、今ではたくさんの人と出会い、支えられ、自分を変えさせてくれたと思います。楽しいこともつらいことも一緒に乗り越えられる仲間ができたこと、私のために時には厳しい言葉をかけてくれるアルバイト先の方や先生など、いろいろな人に応援されて今の私ができました。

昔の自分であれば、楽な道ばかり選びつらいことがあればすぐに逃げ出していました。しかし、現在の私は、自分の自己実現のためにどんなことがあっても前に進む勇気と行動、そして自信を持つことができたと思います。

そのたくさんの出会いによって感謝の気持ちも持てるようになりました。この出会いがなければ、私は自分を好きになれていなかったと思います。これからも、感謝の気持ちを持ちながら新たなスタートを切っていきたいと思います。

一緒に就活を頑張った仲間たちと

4年間に感謝

理工学部
寒河江 徹

4年間を振り返りながら私は今、取りこぼした授業の課題や卒業研究に追われています。

大学入学と同時に親元を離れ、東京で一人暮らしを始めましたが、4年前の春に初めて都会での生活に心躍らせたことがついこの間のようです。

私は工学部ラグビー部に所属していました。ラグビーは高校から続けていましたが、大学生のレベルは思った以上に高く、練習や試合で失敗や苦労を経験しました。練習に行くのが嫌になる時もありましたが、多くの仲間に支えられながら乗り越えていくことができました。ラグビーをしていなかったら、こんなに笑うことも、泣くことも、チームメイトに出会うこともなかっただろうなと、今しみじみ感じています。

ラグビー以外でも新鮮なことばかりでした。初めてアルバイトをして、自分の手でお金を稼ぎました。初めて車を運転しました。初めてお酒を飲みすぎました。初めて始発で帰りました。たくさんの初めてに触れて失敗もしましたが、すべての経験が無駄ではないと思います。決して模範となる学生ではありませんでしたが、楽しかった、成長できたと胸を張って言えます。

最後に、この大学生活を送らせてくれた家族、東京で出会ったたくさんの人たちに感謝いたします。ありがとうございました。

工学部ラグビー部の仲間

娘の卒業に思うこと

一宮 直樹

引っ込み思案な娘が法政に行きたいと言う。娘の性格から都会で孤立すると思った。しかし、娘は今自分の将来を考えている。ここは娘の自立を見守るべきだと思った。

あれから4年、これからは自分の責任と判断で将来を決めなければならない。しかし、人生は思い通りにならぬもの。そうかと言って最初からあきらめてはならない。やらなかったことを後悔するなら、やってから悔した方が良い。やったことは必ずやあなたの財産になるのだから。

卒業に際して

寒河江 茂兵衛

卒業おめでとう。

震災直後に始まった大学生活は忘れられないスタートとなったと思う。親元を離れての4年間、全てにおいて自分で考え、悩み、結論を出さなければならない生活は貴重な経験になり、必ずこれからの糧になることでしょう。

我々にとっても後援会活動を通じて、たくさんの方々との出会いがあり、有意義な4年間でした。

これから、新たなステージへと歩むわけですが、目先のことにとらわれず、5年先、10年先の自分を見据えて行動してほしいと思います。

かけがえのない4年間のなかで

キャリアデザイン学部
宮内 文

私は法政大学で過ごした4年間で大切な仲間に出会うことができました。特に楽しいことだけではなく、苦難も共にしてきたサークルのメンバーにはとても感謝しています。大学に入学してすぐ、私は国際交流サークルに入りました。サークルのメンバーは国際色豊かで、さまざまな文化を知ることができ、価値観を広げることができました。活動では留学生との交流を目的としたさまざまなイベントを企画し、実行してきました。4年間の活動の中では意見が合わずにぶつかり合うこともありましたが、一つ一つのイベントを行うごとにメンバー同士の団結力が高まっていきました。

しかし大学4年間のうちで私が最も仲間の大切さを実感した出来事は就職活動でした。私は当初就職活動が思うようにいかず、毎日悩んでいた時期がありました。そんな時、アドバイスやエントリーシートの添削をしてくれたり、面接の練習をしてくれた同期のメンバーや先輩の存在がありました。また学校帰りにはみんなで飲みに行き、お互いの悩みや面接での失敗談を語り合ったことは、今となっては懐かしい思い出です。このように互いを励まし合ったり、何でも相談できる仲間がいてくれたからこそ、大学生活で一番苦しかった時期を乗り越えることができました。

社会人となり、皆それぞれの道を歩むことになりますが、他のメンバーに負けないように日々成長していきたいと思います。

サークルの4年生でバーベキュー

充実した4年間

経済学部
中村 賢斗

私は大学生活を充実したものにするためにさまざまなことにチャレンジしました。大学では経済学部に在籍し1年次から積極的に授業に出席し経済に関する知識を増やし、また経済だけでなく好きな語学の勉強も怠らずコツコツ努力を積み重ねてきました。学業以外では中学でやっていたバレーボールをサークルで続け練習に励み大会にも出場しました。ほかには、1年次から4年次まで複数のアルバイトを経験し社会勉強をしました。そんな学生生活を過ごしていく中で日々がマンネリ化し嫌気がさす場面が何度かあり、モチベーションを維持する難しさに直面しました。これを打開すべくアメリカ・ニューヨークへ一人旅をしました。初の一人旅で大都市ニューヨークを選んだことは勇気が必要なことでしたが、自分の気持ちを変化させる場所としては最高の場所でした。街のスケールはもちろん、一人一人がエネルギッシュで街全体に一体感があるように感じられ、その雰囲気に圧倒されました。たった1週間の旅で自分の気持ち、考え方が180度変わり、これから続く学生生活の活力となりました。それ以降も幾度かの旅を糧にし自分の力にしてきました。これから社会人になるにあたって足りない部分は山ほどありますが、学生生活で経験したことを生かしそして学ぶことを辞めず精一杯精進していきたいです。私に関わってくださった全ての方に感謝いたします。ありがとうございました。

ニューヨーク一人旅。自由の女神の前で

卒業によせて

宮内 教子

5年前のオープンキャンパスで、キャリアデザイン学部の扉をたたき、先輩の声に耳を傾けながら決意新たに受験勉強に励んで合格を喜び合った日のことが思い出されます。

大学生活では、一人暮らし・アルバイト・留学などを通し、自ら考え行動しながら自分を見つめるかけがえのない時間を得られたことでしょう。4年間で培った学びを糧に社会に出てからも、人との出会いを大切に自分の足で一歩ずつ、あなたの人生のキャリアをデザインしていってほしいと願います。

不撓不屈（ふとうふくつ）

中村 まゆみ

卒業おめでとう。

自分の将来について考え、悩み、そして多くの友人との出会いや社会勉強ができたのがこの4年の時間でしたね。

行き詰まったこと、立ち止まったこともあったでしょう。その時を越えられたのは周りの方々の存在や自分の強い気持ちだったと思います。

これからも多くの方々と関わりながら学んでいきます。自分に責任を持ちたくましく生きる力をさらに身につけ報恩できる社会人となってください。

不撓不屈の精神で。

親子で綴る法政の４年間

充実した４年間

法学部
永井 晶子

法政大学で過ごした4年間は、とても充実していて、あっという間に過ぎて行きました。

このような日々を送ることができたのは、周りの友人に恵まれ、家族が支えてくれたからだと感じます。何かに注力している友人を見て、「私ももっと頑張りたい」といつも励まされていました。

大学では、公共政策のゼミナールに所属し、勉学に励みました。周囲に上手く意見を伝えられず悩むこともありましたが、ゼミナールのメンバーは、いつも明るく優しく接してくれました。勉強も遊びも全力なのがゼミナールの特徴で、バーベキューをしたり、合宿中に観光に出かけたりしたことも良い思い出です。

また、勉強だけでなく、アルバイトに注力したり、旅行に行ったりすることもできました。アルバイトは、授業との両立が大変な時期もありましたが、仕事を通じて、「人に対する気遣い」を学ぶことができたと思います。そして、旅行では趣味の合う友人と出かけ、とても楽しい時間を過ごすことができました。さまざまな景色を見て、文化に触れ、自分の視野を広げることができたと思います。

法政大学での4年間は、楽しい思い出でいっぱいで、ここには書ききれません。4年間で出会った方々は私にとって一生の財産です。友人にたくさん助けてもらった経験から、私は周囲を明るくすることのできる人になりたいと考えています。

一社会人として、感謝の気持ちを忘れず、前向きに日々精進していきます。

合宿にて、宮崎伸光教授とゼミの仲間

新しいことが多い４年間

経済学部
柴田 賢太郎

私にとって、法政大学での4年間は新しいことがたくさんありました。私は中学から高校までずっと男子校に通っていたため、大学になって共学になるという新しさがありました。初めての環境に慣れないこともありましたが、友人にも恵まれ楽しく過ごすことができました。テスト前になってみんなで集まって勉強会を行ったり、テストが終わった時にはみんなで飲み会に行ったり、夏休みに予定を合わせて旅行に行ったりしました。

次に、人生で初めてとなるアルバイトを経験しました。始めたばかりのころはミスをしてしまうことが多く、迷惑をかけてしまうことが多かったのですが、社員の方々が優しく時には厳しく教えてくださり、段々とミスをなくしていくことができました。また、東日本大震災によって被災した人々のために一般で募集されていたボランティアに参加して、東北の被災状況を実際に見て作業に参加しました。どれも大学生にならなければできないような体験で、私を入学させてくれた両親、そして大学に対して感謝の気持ちでいっぱいです。私はこれから大学を卒業し、社会人になります。社会人では大学生活以上に新しいことがたくさんあると思います。そうした新しいことに対して、一つ一つしっかりと楽しみながら取り組んでいきたいと思います。

楽しい思い出がたくさん詰まった多摩キャンパスにて

進取の気象質実の風

永井 勝典

「私は法政大学へ進学する」と言われたのが昨日のようです。卒業おめでとう。学生生活は授業、ゼミ、サークル、アルバイトと毎日フル回転で親として少し心配しましたが成長が感じられ喜びでもありました。私もご縁があって法政スポーツを中心に法政大学を楽しく応援することができました。

「進取の気象質実の風」私は校歌のこの一節が好きです。この姿勢を忘れず少しずつ社会へ恩返しをしていってください。いつも見守っています。

法政 おお わが母校

柴田 康宏

卒業おめでとう。

親・子・孫の三代にわたって法政大学の卒業生になれたこと大変うれしく、また誇りに思います。

法政二中に入学してから10年間、苦しいこと辛いこと、楽しいことうれしいこと、いろいろな経験ができましたね。これらは全てあなたの人生の財産になり糧となるでしょう。

法政魂を胸にいだき、思いやり優しさを忘れることなく、思う存分社会で羽ばたいてください。そしていつかあなたが親となったなら、子供を法政大学に入学させてあげてください。

親からのメッセージ

親子二代

隠岐 康
（龍一／経営学部）

東日本大震災で、授業開始が1カ月遅れた2011年に入学した長男も、今春卒業を迎えました。あっという間の4年間でした。

私自身は他大学出身ですが、学生時代応援団に所属しており、現役時代から法政大学応援団の同期諸兄とは交流がありました。その縁もあり、周囲からのさまざまな勧めの中で、迷いながらも本人が入団を決意しました。

親の自分から見て、性格的にあまり世間一般のイメージで言う応援団向きの性格ではないので、どうかなと思ったのも事実です。

思った通りといいますか、一年の夏合宿の後、続ける意欲を失ってしばらく活動を離れた時期がありましたが、応援団の先輩、さらにはOBの方々にも多くの励ましを頂戴し、なんとか4年間の団生活を全うすることができました。

下級生のうちはあまり親が見に行くのもと思い、神宮球場へも1シーズンに1～2回、行く程度でしたが、本学応援団の活動を仄聞するにつれ法政大学における応援団の価値を改めて深く感じることのできた4年間でした。

春の大学入学式のデモンストレーションに始まり、春秋の六大学野球リーグ戦、東京六大学応援団連盟主催イベント「六旗の下に」、春夏の合宿、歌舞伎町まつりでのパレード、自主法政祭、そしてオレンジの集い、また、その間に相撲、ラクロス、ボート、ヨット、準硬式野球、アメリカンフットボールをはじめ、さまざまな体育会各部の応援はもとより、大学主催の各行事、全国の校友会行事等々、活動の幅の広さには驚きと、同時にどれだけ大学、校友に大切にされているのかとの重みを強く感じました。

迷いを持ちながら応援団活動を続けた本人にとっては、卒業してからこの重みや、「オレンジ」の誇りを年月とともに改めて胸に刻み直すことと思います。

また、私自身にとっての一番の思い出となりましたのは、昨年7月の靖国神社での「みたままつり」での奉納デモンストレーションでした。私の同志道友も数多く駆けつけてくれた中での神事、先の大戦で出征された法政の先輩の御霊（みたま）に法政大学校歌をお届けできたことに深い感銘を受けました。

現在自分の母校で応援団OB会の役員を務めていることから、東西の大学の多くの応援団を見る機会があります。その中でも法政大学応援団の活動は日本中に誇れる素晴らしいものです。もし、これから大学に入学されるご子息、ご令嬢、お知り合いの方がいらっしゃいましたらぜひ、入団をお勧めします。一生の宝物となる得難い体験ができます。門戸は誰にでも開かれています。

最後になりましたが、大学関係者の皆さま、応援団部長山根恵子先生、OB会長嶋克佳会長はじめ、応援団OBの諸先輩にご指導賜りましたこと、深く感謝申し上げます。

後援会ウェブサイトのご案内

URL:http://www.hosei-koenkai.org/

法政大学のウェブサイトを開いていただき、オレンジのインデックスの「保護者の方へ」をクリックしていただいてもアクセスできます。是非一度ご覧になってみてください。

「携帯メール情報」の配信案内

法政大学後援会は、メールマガジンを発行しています。六大学野球、ラグビーや箱根駅伝などのスポーツ情報、講演会などイベント情報を提供しています。一人ひとりの力は小さくても、一致団結して盛り上げて行きましょう。配信ご希望の方は、下記アドレスへ「メールマガジン配信希望」とお書きになり、登録されるメールアドレスをお送りください。

koenkai-reg@ml.hosei.ac.jp

※（　）内はお子さまの名前／学部